

アカハラを襲ったツミ

中島 滋・石原 龍雄・中村 一 恵

A Lesser Sparrow Hawk Attacking a Brown Thrush

Shigeru NAKAJIMA, Tatsuo ISHIHARA and Kazue NAKAMURA

1984年11月14日午後2時頃、箱根町仙石原1246番地旭光業保養所の岩井国浩さん宅の窓ガラスにツミとアカハラが衝突し、ともに死んでしまった。拾得者の話によると、ガラスに何かがあたる大きな音(1回だけ)がしたので見ると、ツミが落ちており、その下にアカハラが倒れていた。その日は霧の深い日であったという。これらの状況から判断して、視界のよくない状態の中でツミがアカハラを追跡し、運悪く両者ともほとんど同時に窓ガラスに激突してしまったのであろう。

ツミは幼鳥雌で、全長約290mm、体重140g、アカハラは成長雌で、全長約220mm、体重81gであった(石原龍雄測定)。

ツミが襲って食べた鳥類として、キセキレイ、コサメビタキ、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、ホオジロ、スズメなどがあげられている(池田, 1956, 鳥獣調査報告15; 石沢・千羽, 1967, 山階鳥研報5)が、これらは体重で示せば、10—25g程度のいわゆる小鳥類である。襲われたアカハラの体重は80g程あり、ツミが襲った鳥としてはかなり大きい。

日本には体の大きさの異なる3種のハイタカ類、すなわちオオタカ、ハイタカ、ツミが棲みついている。この3種は森林や丘陵地などよく似た環境に棲息し、鳥類を主食とする点でも共通している。しかし、3種

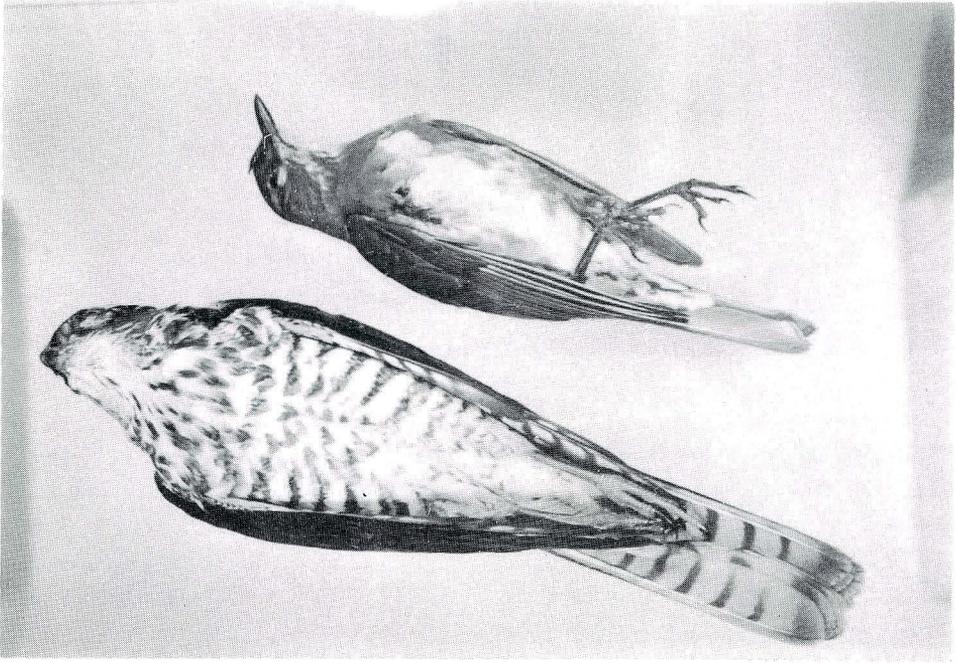
の食物分析の結果(表1)をみると、各種の体の大きさに応じて、捕らえる獲物の大きさや種類にかなりはっきりした違いがある。体の最も大きいオオタカはより多くの哺乳類をとり、体の最も小さいツミはより多くの昆虫類をとっている。中間のハイタカは哺乳類や昆虫類をとることは少ないらしい。さらに鳥類の中では、オオタカは主にキジやヤマドリのような大形種を捕らえて食べ、ハイタカはカケス、ムクドリ、キレンジャク大の鳥からマヒワ、ホオジロ、ヒバリ大の鳥を主食とし、ツミはホオジロ、ウグイス、ヤマガラ、カワラヒワ、エナガなどの小形種を捕らえて食べる(樋口, 1978)。

アカハラのような鳥は、むしろハイタカが捕らえる大きさである。だが、獲物の大きさを考えるとき、雌雄の大きさの違いに留意しないといけない。種の組み合わせは異なるが、北アメリカ東部に棲む3種のハイタカ類の食性を比較研究した結果(STORER, 1966, Auk 83)によると、雄よりも大きい雌は雄よりも大きな獲物を捕らえ、しかも食物の中に含まれる哺乳類の占める割合は雄よりも高い。ツミの翼長は雄で157—172mm、雌で182—200mm、体重は雄で92—115g、雌で111—175gあり(清棲, 1965)、雌は雄よりも大きい。アカハラを襲ったツミは雌である。ツミでも雌は雄より

表1 日本産ハイタカ類3種の食性比較(石沢・千羽, 1967)

食物(%)		体の大きさ		
		大 オオタカ	中 ハイタカ	小 ツミ
哺乳類	35.6	2.4	3.8	
鳥類	64.4	95.2	70.3	
昆虫類	—	2.4	25.9	

%は食餌物出現頻度の総和を100としてあらわしたもの



窓ガラスに衝突し死亡したアカハラ（上）とツミ。石原龍雄撮影

も大きい獲物を捕らえている可能性が高い。ツミがツグミを襲った観察例（中村，1969，採集と飼育31）もある。

では，ツミの雌はアカハラを掴んで飛べたのだろうか。約250gのハイタカの雌は約180g（ハイタカの体重の約78%）のカケスを掴んで飛ぶことができる。（MEINERTZHAGEN, 1959）。ツミの体重は140g，アカハラは81gであり，アカハラの重さはツミの重さの約58%に相当する。ツミはアカハラを運ぶことができた

であろう。

文 献

- 清棲幸保 1965 日本鳥類大図鑑Ⅱ. 講談社，東京。
樋口広芳 1978 鳥の生態と進化. 思索社，東京。
MEINERTZHAGEN, R. 1959 *Pirates and predators*
Oliver & Boyd, London.

（中島滋：箱根町仙石原1245，石原龍雄：箱根町立大涌谷自然科学館，中村一恵：神奈川県立博物館）